

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	外科学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時間	前期 金・1限	教室名	305教室
担 当 教 員	山下 佐知子	実務経験と その関連資格	川崎医科大学附属病院(S49年4月～S54年3月) 太平台医院(S58年4月～現在に至る) 医師免許			
《授業科目における学習内容》						
日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を各臓器別に学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
一般臨床医学・病理学で学んだことを基礎に外科的に考えて症状から治療の仕方を学ぶ。 教科書内容(外科学概論:南江堂)に応じて教科書・パワーポイント等で授業を進める。						
《授業外における学習方法》						
国家試験に対して重要科目で、必ず臨床現場にて遭遇する疾患がある。症状等を確認する必要がある。						
《履修に当たっての留意点》						
患者さんの訴えに対して幅広く考え、適切な判断ができるように外科的知識を学ぶ。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	損傷がわかるようになる。		公益社団法人全 国柔道整復学校 協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習	
	各コマに おける 授業予定	1 損傷				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	炎症の意味や感染症の意味が分かるようになる。		公益社団法人全 国柔道整復学校 協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	病理学の復習	
	各コマに おける 授業予定	2 炎症と外科感染症				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	腫瘍とはどういうものかが理解できる。		公益社団法人全 国柔道整復学校 協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習	
	各コマに おける 授業予定	3 腫瘍				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	ショック状態やその時の措置がわかるようになる。		公益社団法人全 国柔道整復学校 協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習	
	各コマに おける 授業予定	4 ショック 5 輸血、輸液				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	消毒や滅菌の意味が分かるようになる。		公益社団法人全 国柔道整復学校 協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	公衆衛生学の復習	
	各コマに おける 授業予定	6 消毒と滅菌				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	手術の分類などが理解できる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
	各コマにおける授業予定	7 手術			
第7回	授業を通じての到達目標	麻酔の意義や使用方法などが理解できる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
	各コマにおける授業予定	8 麻酔			
第8回	授業を通じての到達目標	移植の種類、免疫の意味がわかる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
	各コマにおける授業予定	9 移植と免疫			
第9回	授業を通じての到達目標	出血の意味、種類と止血の意味、種類が理解できる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
	各コマにおける授業予定	10 出血と止血			
第10回	授業を通じての到達目標	蘇生の重要性がわかる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
	各コマにおける授業予定	11 心肺蘇生法			
第11回	授業を通じての到達目標	主要徴候が理解でき、画像検査がわかる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
	各コマにおける授業予定	12 脳神経外科疾患 13 甲状腺・頸部疾患			
第12回	授業を通じての到達目標	胸部の検査・治療法がわかる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
	各コマにおける授業予定	14 胸壁・呼吸器疾患			
第13回	授業を通じての到達目標	循環器系の検査・治療法がわかる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
	各コマにおける授業予定	15 心臓・脈管疾患			
第14回	授業を通じての到達目標	女性特有の疾患の症状が理解できる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
	各コマにおける授業予定	16 乳腺疾患			
第15回	授業を通じての到達目標	腹部疾患の症状や検査法がわかる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	総合的な復習 まとめ
	各コマにおける授業予定	17 腹部外科疾患			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	経営管理学 I (職業倫理)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時間	前期 水1	教室名	303
担 当 教 員	石井 織江	実務経験と その関連資格	株式会社 テン十字グループ(2014年・4月～2018年・3月) いわもとクリニック(2018年・4月～2021年・3月) 柔道整復師免許 柔道整復専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の職業倫理について理解する						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会 (医歯薬出版株式会社)						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って、本読みや事例を元に学習						
《履修に当たっての留意点》						
学生にはなじみのない倫理観のため、ゆっくりを授業を進める。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	職業のたまかな把握できる。		社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会	本読み復習	
	各コマに おける 授業予定	医療従事者の職業倫理 職業倫理とは				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	柔道整復師の倫理がわかる。		社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会	本読み復習	
	各コマに おける 授業予定	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応 患者への説明・守秘義務				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	社会的責任や対応の仕方がわかる。		社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会	本読み復習	
	各コマに おける 授業予定	柔道整復師の社会的責任と対応 (事例)患者への対応 I～IV				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	事例に基づきディスカッションして事例研究		社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会	本読み復習	
	各コマに おける 授業予定	グループ・ディスカッション事例				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	個人情報について把握できる。		社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会	本読み復習	
	各コマに おける 授業予定	医療における情報と責任 個人情報保護				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	SNS問題が把握できる。		社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み復習
	各コマにおける授業予定	医療における情報と責任 SNS等での業務に関する情報発信での注意点			
第7回	授業を通じての到達目標	倫理綱領がわかる。		社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み復習
	各コマにおける授業予定	職業倫理資料の確認・把握			
第8回	授業を通じての到達目標	職業把握や職業倫理が説明できる。		社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み復習
	各コマにおける授業予定	医療従事者としての職業倫理・まとめ			
第9回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第10回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第11回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第12回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第13回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第14回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第15回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	経営管理学Ⅱ(社会保障制度)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時間	前期 水1	教室名	303
担 当 教 員	石井 織江	実務経験と その関連資格	株式会社 テン十字グループ(2014年・4月～2018年・3月) いわもとクリニック(2018年・4月～2021年・3月) 柔道整復師免許 柔道整復専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
社会保障・社会保険制度・医療保険制度等の仕組み 柔道整復師業務における医療費						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って、本読みや事例を元に学習						
《履修に当たっての留意点》						
社会保障について単語の理解から行う						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	社会保障について理解する		社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会	本読み	
	各コマに おける 授業予定	社会保障とは 社会保障の3つの機能・あるべき社会と今後の社会保障				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	社会保障の仕組みがわかる。		社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会	本読み	
	各コマに おける 授業予定	社会保障制度とは 公的年金の意義・公的年金制度の仕組み				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	年金等の仕組みがわかる。		社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会	本読み	
	各コマに おける 授業予定	社会保障制度とは 介護保険の意義と仕組み 社会福祉・公的扶助・公衆衛生の意義と仕組み				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	医療保険の制度がわかる。		社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会	本読み	
	各コマに おける 授業予定	医療保険制度とは 医療保険の目的と意義・保険診療の概要				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	医療現場や保険の現状がわかる		社会保障制度と 柔道整復師の職 業倫理 公益法人全国柔 道整復学校協会	本読み	
	各コマに おける 授業予定	医療保険制度とは 医療保険財政の現状と課題・診療報酬制度				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	医療費の仕組みや柔道整復の療養費がわかる。	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み
	各コマにおける授業予定	医療費制度の概要 医療費とは・柔道整復療養費		
第7回	授業を通じての到達目標	今後の医療費の概要がわかる。	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み
	各コマにおける授業予定	医療費制度の概要 柔道整復療養費の推移・医療費の算定		
第8回	授業を通じての到達目標	総合的に社会保障全般を理解する。	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 公益法人全国柔道整復学校協会	本読み
	各コマにおける授業予定	療養費請求のケーススタディ・まとめ		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	国試対策		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時限	前期 木1限	教室名	304教室
担 当 教 員	井上晃一	実務経験と その関連資格	白馬堂整骨院(H27年・4月～H28年5月)、ひろまる整骨院(H28年5月～H30年11月) 接骨院開業(H30年12月～現在に至る) 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学を総合的に学び、他科目についても学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改定第6版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復師						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理 論編 改定第6 版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改 定第6版本読み・問題の 復習	
	各コマに おける 授業予定	柔道整復学必修・総合必修問題の回答・解説				
第2回	授業を 通じての 到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理 論編 改定第6 版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改 定第6版本読み・問題の 復習	
	各コマに おける 授業予定	柔道整復学一般・総合問題の回答・解説				
第3回	授業を 通じての 到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理 論編 改定第6 版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改 定第6版本読み・問題の 復習	
	各コマに おける 授業予定	柔道整復学一般・総合問題の回答・解説				
第4回	授業を 通じての 到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理 論編 改定第6 版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改 定第6版本読み・問題の 復習	
	各コマに おける 授業予定	柔道整復学一般・総合問題の回答・解説				
第5回	授業を 通じての 到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理 論編 改定第6 版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改 定第6版本読み・問題の 復習	
	各コマに おける 授業予定	小テスト・回答・解説				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理論編 改定第6版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第6版本読み・問題の復習
	各コマにおける授業予定	柔道整復学必修・総合必修問題の回答・解説			
第7回	授業を通じての到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理論編 改定第6版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第6版本読み・問題の復習
	各コマにおける授業予定	柔道整復学一般・総合問題の回答・解説			
第8回	授業を通じての到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理論編 改定第6版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第6版本読み・問題の復習
	各コマにおける授業予定	柔道整復学一般・総合問題の回答・解説			
第9回	授業を通じての到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理論編 改定第6版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第6版本読み・問題の復習
	各コマにおける授業予定	柔道整復学一般・総合問題の回答・解説			
第10回	授業を通じての到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理論編 改定第6版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第6版本読み・問題の復習
	各コマにおける授業予定	小テスト・回答・解説			
第11回	授業を通じての到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理論編 改定第6版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第6版本読み・問題の復習
	各コマにおける授業予定	柔道整復学必修・総合必修問題の回答・解説			
第12回	授業を通じての到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理論編 改定第6版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第6版本読み・問題の復習
	各コマにおける授業予定	柔道整復学一般・総合問題の回答・解説			
第13回	授業を通じての到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理論編 改定第6版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第6版本読み・問題の復習
	各コマにおける授業予定	柔道整復学一般・総合問題の回答・解説			
第14回	授業を通じての到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理論編 改定第6版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第6版本読み・問題の復習
	各コマにおける授業予定	柔道整復学一般・総合問題の回答・解説			
第15回	授業を通じての到達目標	国家試験対策を行い、合格レベルまで到達することができるようになる。		柔道整復学・理論編 改定第6版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第6版本読み・問題の復習
	各コマにおける授業予定	小テスト・回答・解説			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	診断学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時限	前期	教室名	305
担 当 教 員	鈴木 伸典	実務経験と その関連資格	吹田市民病院(1979年～1991年)、大阪市立総合医療センター(1993年～2007年) 医師			
《授業科目における学習内容》						
医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会)						
《成績評価の方法と基準》						
試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
南江堂 全国柔道整復学校協会 (医療の中の柔道整復)						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験に類似する(整形外科・一般臨床医学)						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	結核の病態・骨折との共通点	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復		
		各コマにおける授業予定	背痛:脊椎カリエス			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨基質の減少・病的骨折	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復		
		各コマにおける授業予定	背痛:骨粗鬆			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みの病理・外傷との共通	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復		
		各コマにおける授業予定	腹痛:炎症性腸疾患			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節リウマチ・骨腫瘍	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復		
		各コマにおける授業予定	関節痛・腰痛			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	出血性ショック・動脈損傷	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復		
		各コマにおける授業予定	血流障害・ショック			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	コンパートメント症候群・末梢神経損傷	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	
		各コマにおける授業予定	神経損傷		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	CRPS・出血機転	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	
		各コマにおける授業予定	出血・骨折合併症		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ショック分類・救急処置	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	
		各コマにおける授業予定	出血性ショック		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	心マッサージ・AED・トリアージ	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	
		各コマにおける授業予定	救急処置		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	症候性頭痛	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	
		各コマにおける授業予定	頭部外傷:頭痛		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳振盪・JCS	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	
		各コマにおける授業予定	頭部外傷:意識障害		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	硬膜外血腫・硬膜下血腫・脳挫傷	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	
		各コマにおける授業予定	頭部外傷:頭蓋内血腫		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	自然気胸・外傷性気胸	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	
		各コマにおける授業予定	胸部外傷:気胸		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸壁動揺・血胸	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	
		各コマにおける授業予定	胸部外傷:肋骨骨折		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	腹部損傷・災害救急治療	全国柔道整復学校協会 医療の中の柔道整復	
		各コマにおける授業予定	高エネルギー・外傷		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	整復臨床実技 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時限	前期 木・3,4限	教室名	実技実習室2
担 当 教 員	岡本 一馬	実務経験と その関連資格	かとう整形外科(H24年4月～H30年12月) みどりまち接骨院(H31年2月～現在に至る)			
《授業科目における学習内容》						
実技認定試験に対応する内容である。実際の臨床との関連を明確にし、卒業後においても役に立つ内容を提供する。また、柔道整復師国家試験の対象範囲でもあるため国家試験も意識した授業を心がける。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復試験財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施し評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を常に想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組んでもらう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	橈骨遠位端骨折について理解し、診察と整復を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折 診察 牽引直圧整復法・屈曲整復法			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折 クラメル副子と局所副子・三角巾固定			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	ボクサー骨折の特徴を理解する	柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
		各コマにおける授業予定	第5中手骨頸部骨折 アルミ副子掌側固定			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	第5中手骨頸部骨折の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
		各コマにおける授業予定	第5中手骨頸部骨折 アルミ副子掌側固定			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	第2指PIP関節背側脱臼について理解する	柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
		各コマにおける授業予定	第2指PIP関節背側脱臼 アルミ副子背側固定			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折について理解し、整復法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折 整復法		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折 固定法		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節脱臼について理解し、診察と整復法を取得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼 診察と整復法		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節脱臼の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼 固定法		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折について理解し、診察と整復を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折 診察と整復		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折について理解し、固定具を作成	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折 ミッドドルフ固定		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折 ミッドドルフ固定		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼について理解し、診察と整復法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼 診察と整復法		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼 局所副子・三角巾固定		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	肘関節後方脱臼について理解し、診察と整復法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肘関節後方脱臼 診察と整復法		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	整復臨床実技 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時間	前期 木・3,4限	教室名	実技実習室2
担 当 教 員	岡本 一馬	実務経験と その関連資格	かとう整形外科(H24年4月～H30年12月) みどりまち接骨院(H31年2月～現在に至る)			
《授業科目における学習内容》						
実技認定試験に対応する内容である。実際の臨床との関連を明確にし、卒業後においても役に立つ内容を提供する。また、柔道整復師国家試験の対象範囲でもあるため国家試験も意識した授業を心がける。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復試験財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施し評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を常に想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組んでもらう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	授業を 通じての 到達目標	肘関節後方脱臼の固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	肘関節後方脱臼 固定法				
第 17 回	授業を 通じての 到達目標	肘内障について理解し、診察と整復法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	肘内障の診察と整復法				
第 18 回	授業を 通じての 到達目標	肋骨骨折について理解し、固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	肋骨骨折 さらしと厚紙副子固定				
第 19 回	授業を 通じての 到達目標	下腿骨幹部の固定法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	下腿骨幹部骨折 クラメール副子				
第 20 回	授業を 通じての 到達目標	下腿三頭筋損傷(肉離れ)について理解し、診察と検査法を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技お よびレジュメ		
	各コマに おける 授業予定	下腿三頭筋損傷(肉離れ) 診察と検査法				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	授業を通じての到達目標	アキレス腱断裂について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	アキレス腱断裂 クラメール副子固定		
第22回	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、診察と検査法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 診察と検査法		
第23回	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 局所副子固定		
第24回	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 局所副子固定		
第25回	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 バスケットウィーブテープ固定		
第26回	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷について理解し、固定法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロック固定		
第27回	授業を通じての到達目標	前期授業で行った疾患の診察、整復法、固定について再度理解し復習	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	前期 授業で行った疾患の診察、整復法、固定法		
第28回	授業を通じての到達目標	前期授業で行った疾患の診察、整復法、固定について再度理解し復習	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	前期 授業で行った疾患の診察、整復法、固定法		
第29回	授業を通じての到達目標	実技テスト(整復実技5分、固定実技5分)	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
	各コマにおける授業予定	認定実技試験の評価法に基づいて整復操作および固定実技について評価する。		
第30回	授業を通じての到達目標	実技テスト(整復実技5分、固定実技5分)		
	各コマにおける授業予定	認定実技試験の評価法に基づいて整復操作および固定実技について評価する。		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	基礎分野	授業の方法	実習
科目名	整復臨床実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	4年生		学期及び曜時間	前期	教室名	体育館
担当教員	柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業(H4・2月～H13・8月) 大阪ハイテク附属整骨院(H18・11月～H29・8月) 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
整復臨床実技において修得した投げ技を高めるとともに、高度な受け身(投げの形、実戦形式での受身)の取得を目標とする。「投の形」の手技、腰技、足技の9種類を受け取りともに身につける。なお、柔道実技審査に向けた指導をし、習得させる。						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
認定実技審査の項目						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
高度な受身・投げ技を習得するとともに、相手のことを尊重し、協力して全員が柔道実技審査に合格することを目標とし、授業に参加する						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道着の着こなし方、礼法、受身、投げの形について理解できるようにする。	認定実技審査要綱	柔道着の確認	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 柔道実技審査に向けたビデオ鑑賞			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技)3つの技を習得できるようにする。	認定実技審査要綱	前回り受身 飛び込みの前回り受身の確認 すり足 前の移動 横の移動 後ろの移動	
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(浮落、背負投、肩車)を順番に指導する。			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技)3つの技を習得できるようにする。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(浮落、背負投、肩車)を順番に指導する。			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(腰技)3つの技を習得できるようにする。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(浮腰、払腰、釣込腰)を順番に指導する。			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(腰技)3つの技を習得できるようにする。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(浮腰、払腰、釣込腰)を順番に指導する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(足技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(送足払、支釣込足、内股)を順番に指導する。		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(足技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(受・取の協力性)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(送足払、支釣込足、内股)を順番に指導する。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(受・取の協力性)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	実践練習(乱取)にて、投げる、投げられ受身をとるといったことができるようにする。	認定実技審査要綱	きっちりとした技で投げる、投げられる際の受身
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	実践練習(乱取)にて、投げる、投げられ受身をとるといったことができるようにする。	認定実技審査要綱	きっちりとした技で投げる、投げられる際の受身
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合形式で実践し、公式試合に出場できる知識を身につけられるようにする。	認定実技審査要綱	審判の体験
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合形式で実践し、公式試合に出場できる知識を身につけられるようにする。	認定実技審査要綱	実技試験に向けた演舞、実践練習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	総合柔道整復演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時間	前期 月1・2限	教室名	303
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	医療法人 淳良会 関目病院(H25・4月～H26・12月) 橋本スポーツ鍼灸整骨院(H27・3月～H29・9月) 柔道整復師、柔道整復師専科教員,NSCA-CPT、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学の総論・各論(上肢)の国家試験対策として柔道整復師国家試験出題基準の問題出題基準に準じて問題演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
小テストの結果、提出物等により評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
小テストの問題に対して問題解説を作成する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。		上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
	各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。				
第2回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。		上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
	各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。				
第3回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。		上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
	各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。				
第4回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。		上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
	各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。				
第5回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。		上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
	各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	総合柔道整復演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時限	前期 月1・2限	教室名	303
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	医療法人 淳良会 関目病院(H25・4月～H26・12月) 橋本スポーツ鍼灸整骨院(H27・3月～H29・9月) 柔道整復師、柔道整復師専科教員,NSCA-CPT、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学の総論・各論(上肢)の国家試験対策として柔道整復師国家試験出題基準の問題出題基準に準じて問題演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
小テストの結果、提出物等により評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
小テストの問題に対して問題解説を作成する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント		教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント		教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント		教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント		教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント		教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題出題基準に準じた問題(柔道整復学)について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の出題範囲に準じた問題演習を行う。		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	総合柔道整復演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時間	前期 水 2	教室名	304
担 当 教 員	松澤伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 兵庫柔整専門学校附属整骨院(H27・11月～H30・3月) 美作市スポーツ医療看護専門学校附属整骨院(R1・9月～現在に至る)			
《授業科目における学習内容》						
国家試験対策として解剖学及び運動学の運動器、柔道整復学の国家試験出題基準に準じた問題演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
小テストの結果、提出物等により評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編 改訂第2版、関係法規 2020年度版、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、解剖学、運動学						
《授業外における学習方法》						
小テストの問題に対して問題解説を作成する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の解剖学、運動学における運動器の問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など		教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の解剖学、運動学における運動器の問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など		教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の解剖学、運動学における運動器の問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など		教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の解剖学、運動学における運動器の問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など		教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の解剖学、運動学における運動器の問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など		教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の解剖学、運動学における運動器の問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など	教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の解剖学、運動学における運動器の問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など	教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の解剖学、運動学における運動器の問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など	教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の解剖学、運動学における運動器の問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など	教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の解剖学、運動学における運動器の問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など	教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など	教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など	教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など	教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など	教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	教科書 参考資料など	教科書の復習、問題に対する解答、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習及び解答解説(グループワークなど)		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	アスレチックリハビリテーション		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時限	後期	教室名	303教室
担 当 教 員	日高 彰人	実務経験と その関連資格	シオノギ製薬女子ソフトボール部トレーナー(H23年~H25年) ヴィッセル神戸スクールコーチ兼トレーナー(R2年~現在に至る) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー			
《授業科目における学習内容》						
<p>トレーナーの大きな役割の1つである「アスレチックリハビリテーション」について、スポーツ選手の傷病の受傷後から復帰までの要素とアプローチ方法を理解し、実践できるようになる為の講義・実技を行う。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>期末テスト・出席・平常点</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー教本7「アスレチックリハビリテーション」</p>						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する		AT教本7 「アスレチックリハビリテーション」	日本スポーツ協会の教本と配布資料の読み込みと復習。	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(体幹) -頸部捻挫-				
第2回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する		AT教本7 「アスレチックリハビリテーション」	日本スポーツ協会の教本と配布資料の読み込みと復習。	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(体幹) -頸部捻挫-				
第3回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する		AT教本7 「アスレチックリハビリテーション」	日本スポーツ協会の教本と配布資料の読み込みと復習。	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(体幹) -腰部疾患-				
第4回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する		AT教本7 「アスレチックリハビリテーション」	日本スポーツ協会の教本と配布資料の読み込みと復習。	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(体幹) -腰部疾患-				
第5回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する		AT教本7 「アスレチックリハビリテーション」	日本スポーツ協会の教本と配布資料の読み込みと復習。	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -肩関節前方脱臼-				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」	日本スポーツ協会の教 本と配布資料の読み込 みと復習。
		各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -肩関節前方脱臼-		
第7回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」	日本スポーツ協会の教 本と配布資料の読み込 みと復習。
		各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -投球障害肩-		
第8回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」	日本スポーツ協会の教 本と配布資料の読み込 みと復習。
		各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -投球障害肩-		
第9回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」	日本スポーツ協会の教 本と配布資料の読み込 みと復習。
		各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -外傷性肘MCL損傷-		
第10回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」	日本スポーツ協会の教 本と配布資料の読み込 みと復習。
		各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -外傷性肘MCL損傷-		
第11回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」	日本スポーツ協会の教 本と配布資料の読み込 みと復習。
		各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -上腕骨内側・外側上顆炎 非外傷性肘MCL損傷-		
第12回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」	日本スポーツ協会の教 本と配布資料の読み込 みと復習。
		各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -上腕骨内側・外側上顆炎 非外傷性肘MCL損傷-		
第13回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」	日本スポーツ協会の教 本と配布資料の読み込 みと復習。
		各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -手関節障害-		
第14回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」	日本スポーツ協会の教 本と配布資料の読み込 みと復習。
		各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -手関節障害-		
第15回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」	日本スポーツ協会の教 本と配布資料の読み込 みと復習。
		各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -足関節捻挫-		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	アスレチックリハビリテーション		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時限	後期	教室名	303教室
担 当 教 員	日高 彰人	実務経験と その関連資格	シオノギ製薬女子ソフトボール部トレーナー(H23年~H25年) ヴィッセル神戸スクールコーチ兼トレーナー(R2年~現在に至る) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー			
《授業科目における学習内容》						
トレーナーの大きな役割の1つである「アスレチックリハビリテーション」について、スポーツ選手の傷病の受傷後から復帰までの要素とアプローチ方法を理解し、実践できるようになる為の講義・実技を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
期末テスト・出席・平常点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー教本7「アスレチックリハビリテーション」						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する		AT教本7 「アスレチックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -足関節捻挫-				
第 17 回	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する		AT教本7 「アスレチックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -膝MCL損傷-				
第 18 回	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する		AT教本7 「アスレチックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -膝MCL損傷-				
第 19 回	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する		AT教本7 「アスレチックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -膝ACL損傷-				
第 20 回	授業を 通じての 到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する		AT教本7 「アスレチックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -膝ACL損傷-				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -大腿部肉離れ-		
第22回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -大腿部肉離れ-		
第23回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -扁平足障害-		
第24回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -扁平足障害-		
第25回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -脛骨過労性障害-		
第26回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -脛骨過労性障害-		
第27回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -膝蓋大腿部関節障害-		
第28回	授業を通じての到達目標	それぞれの外傷について得ておくべき医学的情報・評価・リスク管理・配慮すべき事項・リハの内容・復帰の目安などについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングと実践(上肢) -膝蓋大腿部関節障害-		
第29回	授業を通じての到達目標		AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	まとめ		
第30回	授業を通じての到達目標		AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	期末試験		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	医学史		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時限	後期	教室名	304教室
担 当 教 員	柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業(H4・2月～H13・8月) 大阪ハイテク附属整骨院(H18・11月～H29・8月) 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の歴史を中心に医学史全般を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学 理論編						
《授業外における学習方法》						
臨床現場にてにおいて必要な知識を学ぶ。						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復師として現代医学を学んでいく上で必要不可欠な医学の歴史を学ぶ。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医学の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読	
		各コマにおける授業予定	医学の歴史			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	西洋の医学史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読	
		各コマにおける授業予定	西洋の医学史			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	西洋の医学史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読	
		各コマにおける授業予定	西洋の医学史			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	西洋の医学史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読	
		各コマにおける授業予定	西洋の医学史			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	東洋の医学史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読	
		各コマにおける授業予定	東洋の医学史			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	東洋の医学史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	東洋の医学史		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	東洋の医学史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	東洋の医学史		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の医学史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	日本の医学史		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の医学史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	日本の医学史		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の医学史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	日本の医学史		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療倫理の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	医療倫理の歴史		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国試対策講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	1 (30) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時限	後期	教室名	303教室
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	医療法人 淳良会 関目病院(H25・4月～H26・12月) 橋本スポーツ鍼灸整骨院(H27・3月～H29・9月) 柔道整復師、柔道整復師専科教員,NSCA-CPT、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》						
運動学、整形外科学、リハビリテーション医学の国家試験対策。 問題演習を中心に行い、自分の苦手分野の把握と克服できるように学習を進めていく。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、授業内提出物等により判断する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
運動学 改定第3版、整形外科学 改定第4版、リハビリテーション医学 改定第4版 国家試験過去問題集、配布プリント						
《授業外における学習方法》						
授業内にて把握した苦手分野の反復学習。 過去問題の反復学習。						
《履修に当たっての留意点》						
100%の出席を目指し、学習機会を減らさないようにしてもらいたい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた運動学の問題について、解答・解説できるようにする。		運動学 改定第3版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。	
	各コマにおける授業予定	運動の表し方、身体運動と力学、運動器の構造と機能について問題演習を行い、解説する。				
第2回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた整形外科学の問題について、解答・解説できるようにする。		整形外科学 改定第4版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。	
	各コマにおける授業予定	整形外科学総論について問題演習を行い、解説する。				
第3回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じたリハビリテーション医学の問題について、解答・解説できるようにする。		リハビリテーション医学 改定第4版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。	
	各コマにおける授業予定	リハビリテーションの概念と歴史、医学の対象について問題演習を行い、解説する。				
第4回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた運動学の問題について、解答・解説できるようにする。		運動学 改定第3版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。	
	各コマにおける授業予定	神経の構造と機能、運動感覚について問題演習を行い、解説する。				
第5回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた整形外科学の問題について、解答・解説できるようにする。		整形外科学 改定第4版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。	
	各コマにおける授業予定	疾患別各論(感染性疾患、骨および軟部腫瘍、非感染性軟部・骨関節疾患、全身性の骨・軟部疾患)について問題演習を行い、解説する。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じたリハビリテーション医学の問題について、解答・解説できるようになる。	リハビリテーション医学 改定第4版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学の基礎医学、評価と診断について問題演習を行い、解説する。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた運動学の問題について、解答・解説できるようになる。	運動学 改定第3版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹について問題演習を行い、解説する。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた整形外科学の問題について、解答・解説できるようになる。	整形外科学 改定第4版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。
		各コマにおける授業予定	疾患別各論(骨端症、四肢循環障害、神経・筋疾患)について問題演習を行い、解説する。		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じたリハビリテーション医学の問題について、解答・解説できるようになる。	リハビリテーション医学 改定第4版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの治療について問題演習を行い、解説する。		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた運動学の問題について、解答・解説できるようになる。	運動学 改定第3版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。
		各コマにおける授業予定	姿勢、歩行について問題演習を行い、解説する。		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた整形外科学の問題について、解答・解説できるようになる。	整形外科学 改定第4版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。
		各コマにおける授業予定	身体部位別疾患各論(上肢)について問題演習を行い、解説する。		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じたリハビリテーション医学の問題について、解答・解説できるようになる。	リハビリテーション医学 改定第4版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの実際について問題演習を行い、解説する。		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた運動学の問題について、解答・解説できるようになる。	運動学 改定第3版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。
		各コマにおける授業予定	運動発達、運動学習について問題演習を行い、解説する。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた整形外科学の問題について、解答・解説できるようになる。	整形外科学 改定第4版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。
		各コマにおける授業予定	身体部位別疾患各論(下肢)について問題演習を行い、解説する。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じたリハビリテーション医学の問題について、解答・解説できるようになる。	リハビリテーション医学 改定第4版、国家試験過去問題集、配布プリント	学習範囲内の復習と、問題に対するポイントの整理を行う。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学と関連職種、リハビリテーションと福祉について問題演習を行い、解説する。		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	整復応用実技Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時限	後期	教室名	実技実習室2
担 当 教 員	岡本 一馬	実務経験と その関連資格	かとう整形外科(H24年4月～H30年12月) みどりまち接骨院(H31年2月～現在に至る)			
《授業科目における学習内容》						
認定実技試験に対応する実技主体の講義。 国家試験にも目を向け、さらには臨床でも対応できるよう実施する。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復師兼財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論および柔道整復実技、レジュメ						
《授業外における学習方法》						
教科書に必ず目を通すこと						
《履修に当たっての留意点》						
実技認定試験、国家試験に係る科目なので真剣に取り組んでもらう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション: 認定実技試験に向け、柔道整復師兼財団が発表した要項を確認する。鎖骨骨折における整復操作についてまとめ、認定実技に対応できるようにする。	R2年度認定実技試験要項 教科書(柔道整復実技、理論)		
		各コマにおける授業予定	R2年度認定実技試験要項を確認する。鎖骨骨折の骨折部位、発生機序、整復操作			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折における整復操作についてまとめ、認定実技に対応できるようにする。	教科書(柔道整復実技、理論)		
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折の骨折部位、発生機序、患部の状態、症状、整復操作			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節前方脱臼における整復操作についてまとめ、認定実技に対応できるようにする。	教科書(柔道整復実技、理論)		
		各コマにおける授業予定	肩関節前方脱臼の脱臼部位、発生機序、患部の状態、症状、整復操作			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	肘関節後方脱臼における整復操作についてまとめ、認定実技に対応できるようにする。	教科書(柔道整復実技、理論)		
		各コマにおける授業予定	肘関節後方脱臼の脱臼部位、発生機序、患部の状態、整復操作			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節側副靭帯損傷における検査法についてまとめ、認定実技に対応できるようにする。	教科書(柔道整復実技、理論)		
		各コマにおける授業予定	膝関節側副靭帯損傷の損傷部位、発生機序、患部の状態、検査方法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷における検査法についてまとめ、認定実技に対応できるようにする。	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	足関節靭帯損傷の損傷部位、発生機序、患部の状態、検査方法		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の固定法についてまとめ、認定実技に対応できるようにする。	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折の固定材料、固定手順		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	第5中手骨頸部骨折のアルミ副子固定、第2指PIP関節背側脱臼アルミ副子固定についてまとめ、認定実技に対応できるようにする。	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	第5中手骨頸部骨折、手第2指PIP背側脱臼の固定材料、固定手順		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	肘関節後方脱臼におえるクラーメル副子固定、三角巾固定についてまとめ、認定実技試験に対応できるようにする。	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	肘関節後方脱臼の固定材料、固定手順		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折、コーレス骨折、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、膝関節側副靭帯損傷、足関節外側靭帯損傷		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折、コーレス骨折、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、膝関節側副靭帯損傷、足関節外側靭帯損傷		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折のクラーメル副子固定・局所圧迫固定、第5中手骨頸部骨折のアルミ副子掌側固定、肘関節後方脱臼のクラーメル副子固定、第2指PIP背側脱臼のアルミ副子背側固定		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折のクラーメル副子固定・局所圧迫固定、第5中手骨頸部骨折のアルミ副子掌側固定、肘関節後方脱臼のクラーメル副子固定、第2指PIP背側脱臼のアルミ副子背側固定		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折、コーレス骨折、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、膝関節側副靭帯損傷、足関節外側靭帯損傷		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折、コーレス骨折、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、膝関節側副靭帯損傷、足関節外側靭帯損傷		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義実習
科目名	整復応用実技Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	4年生		学期及び曜時限	後期	教室名	実技実習室2
担当教員	岡本 一馬	実務経験と その関連資格	かとう整形外科(H24年4月～H30年12月) みどりまち接骨院(H31年2月～現在に至る)			
《授業科目における学習内容》						
認定実技試験に対応する実技主体の講義。 国家試験にも目を向け、さらには臨床でも対応できるよう実施する。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復師兼財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論および柔道整復実技、レジュメ						
《授業外における学習方法》						
柔道整復理論および柔道整復実技の教科書をしっかりと学ぶ。基礎からなるだけそれないこと。						
《履修に当たっての留意点》						
実技認定試験、国家試験に係る科目なので真剣に取り組んでもらう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)		
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折のクラーメル副子固定・局所圧迫固定、第5中手骨頸部骨折のアルミ副子掌側固定、肘関節後方脱臼のクラーメル副子固定、第2指PIP背側脱臼のアルミ副子背側固定			
第17回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)		
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折のクラーメル副子固定・局所圧迫固定、第5中手骨頸部骨折のアルミ副子掌側固定、肘関節後方脱臼のクラーメル副子固定、第2指PIP背側脱臼のアルミ副子背側固定			
第18回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)		
		各コマにおける授業予定	本番と同じ内容で実施する。整復審査、固定審査			
第19回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)		
		各コマにおける授業予定	本番と同じ内容で実施する。整復審査、固定審査			
第20回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験合格を想定した実践的反复練習	教科書(柔道整復実技、理論)		
		各コマにおける授業予定	本番と同じ内容で実施する。整復審査、固定審査			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験総合範囲を総復習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	全範囲から想定問題を出題		
第22回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験総合範囲を総復習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	全範囲から想定問題を出題		
第23回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験総合範囲を総復習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	全範囲から想定問題を出題		
第24回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験総合範囲を総復習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	全範囲から想定問題を出題		
第25回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験総合範囲を総復習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	全範囲から想定問題を出題		
第26回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験総合範囲を総復習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	全範囲から想定問題を出題		
第27回	演習形式	授業を通じての到達目標	v認定実技試験総合範囲を総復習□ 全範囲から想定問題を出題□	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	全範囲から想定問題を出題		
第28回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験総合範囲を総復習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	全範囲から想定問題を出題		
第29回	演習形式	授業を通じての到達目標	認定実技試験総合範囲を総復習	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	全範囲から想定問題を出題		
第30回	演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験を想定したペーパー試験	教科書(柔道整復実技、理論)	
		各コマにおける授業予定	国家試験出題基準に準じた試験とする。		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	整復臨床実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	4年生		学期及び曜時限	後期	教室名	体育館
担当教員	柴崎清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業(H4・2月～H13・8月) 大阪ハイテク附属整骨院(H18・11月～H29・8月) 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
<p>整復臨床実技において修得した投げ技を高めるとともに、高度な受け身(投げの形、実戦形式での受身)の取得を目標とする。「投げの形」の手技、腰技、足技の9種類を受け取りともに身につける。なお、柔道実技審査に向けた指導をし、習得させる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
認定実技審査の項目						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
高度な受身・投げ技を習得するとともに、相手のことを尊重し、協力して全員が柔道実技審査に合格することを目標とし、授業に参加する						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道着の着こなし方、礼法、受身、投げの形について理解できるようにする。	認定実技審査要綱	柔道着の確認	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 柔道実技審査に向けたビデオ鑑賞			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技)3つの技を習得できるようにする。	認定実技審査要綱	前回り受身 飛び込みの前回り受身の確認 すり足 前の移動 横の移動 後ろの移動	
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(浮落、背負投、肩車)を順番に指導する。			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技)3つの技を習得できるようにする。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(浮落、背負投、肩車)を順番に指導する。			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(腰技)3つの技を習得できるようにする。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(浮腰、払腰、釣込腰)を順番に指導する。			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(腰技)3つの技を習得できるようにする。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得	
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(浮腰、払腰、釣込腰)を順番に指導する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(足技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(送足払、支釣込足、内股)を順番に指導する。		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(足技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(受・取の協力性)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方、手技(送足払、支釣込足、内股)を順番に指導する。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(受・取の協力性)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形におけるの入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	実践練習(乱取)にて、投げる、投げられ受身をとるといったことができるようにする。	認定実技審査要綱	きっちりとした技で投げる、投げられる際の受身
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	実践練習(乱取)にて、投げる、投げられ受身をとるといったことができるようにする。	認定実技審査要綱	きっちりとした技で投げる、投げられる際の受身
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合形式で実践し、公式試合に出場できる知識を身につけられるようにする。	認定実技審査要綱	審判の体験
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合形式で実践し、公式試合に出場できる知識を身につけられるようにする。	認定実技審査要綱	実技試験に向けた演舞、実践練習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	総合柔道整復演習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	4年生		学期及び曜時限	後期	教室名	303教室
担当教員	石井 織江	実務経験と その関連資格	株式会社 テン十字グループ(2014年・4月～2018年・3月) いわもとクリニック(2018年・4月～2021年・3月) 柔道整復師免許 柔道整復専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学・各論について学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版、配布プリント						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み、配布プリントの復習、まとめ						
《履修に当たっての留意点》						
基礎となる解剖学を理解すること、本読みを行い教科書の記載内容を理解すること						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	肘関節部の骨折の合併症について理解する		柔道整復学・理 論編改訂第6版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
	各コマに おける 授業予定	顎上骨折の合併症 小テスト				
第2回	授業を 通じての 到達目標	膝軟部組織損傷について理解する		柔道整復学・理 論編改訂第6版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
	各コマに おける 授業予定	膝軟部組織損傷の長文・文章問題				
第3回	授業を 通じての 到達目標	肘関節部の骨折の合併症について理解する		柔道整復学・理 論編改訂第6版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
	各コマに おける 授業予定	肘関節周囲の骨折の合併症を学ぶ 小テスト				
第4回	授業を 通じての 到達目標	鎖骨周囲の脱臼について理解する		柔道整復学・理 論編改訂第6版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
	各コマに おける 授業予定	肩鎖関節脱臼・胸鎖関節脱臼について学ぶ 小テスト				
第5回	授業を 通じての 到達目標	膝蓋骨脱臼について理解する		柔道整復学・理 論編改訂第6版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
	各コマに おける 授業予定	膝蓋骨脱臼 小テスト				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	苦手なポイントを理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	復習、小テスト		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿骨頸部骨折について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨頸部骨折 小テスト		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢末梢神経障害について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	正中・橈骨・尺骨神経損傷 小テスト		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	顎関節脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	顎関節脱臼について学ぶ 小テスト		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢末梢神経障害について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	正中・橈骨・尺骨神経損傷 小テスト		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩関節脱臼 小テスト		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢末梢神経障害について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	正中・橈骨・尺骨神経損傷 小テスト		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	苦手なポイントを理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	復習、小テスト		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	股関節脱臼について学ぶ 小テスト		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	復習	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	まとめ問題、解説		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	総合柔道整復演習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	4年生		学期及び曜時限	後期	教室名	303教室
担当教員	石井 織江	実務経験と その関連資格	株式会社 テン十字グループ(2014年・4月～2018年・3月) いわもとクリニック(2018年・4月～2021年・3月) 柔道整復師免許 柔道整復専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学・各論について学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版、配布プリント						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み、配布プリントの復習、まとめ						
《履修に当たっての留意点》						
基礎となる解剖学を理解すること、本読みを行い教科書の記載内容を理解すること						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	授業を 通じての 到達目標	肘関節脱臼について理解する		柔道整復学・理 論編改訂第6版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
	各コマに おける 授業予定	肘関節脱臼について学ぶ 小テスト				
第 17 回	授業を 通じての 到達目標	足根骨骨折について理解する		柔道整復学・理 論編改訂第6版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
	各コマに おける 授業予定	足根骨骨折について学ぶ 小テスト				
第 18 回	授業を 通じての 到達目標	上腕骨外科頸骨折について理解する		柔道整復学・理 論編改訂第6版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
	各コマに おける 授業予定	上腕骨外科頸骨折について学ぶ 小テスト				
第 19 回	授業を 通じての 到達目標	苦手なポイントを理解する		柔道整復学・理 論編改訂第6版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
	各コマに おける 授業予定	まとめ、復習 小テスト				
第 20 回	授業を 通じての 到達目標	必修問題を解く		柔道整復学・理 論編改訂第6版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
	各コマに おける 授業予定	必修頻出項目の問題、小テスト、解説				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	授業を通じての到達目標	必修問題を解く	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	必修頻出項目の問題、小テスト、解説		
第22回	授業を通じての到達目標	足関節周囲の損傷を理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	足関節周囲の損傷を学ぶ、小テスト		
第23回	授業を通じての到達目標	中手骨骨折について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	中手骨骨折について学ぶ 小テスト		
第24回	授業を通じての到達目標	中手骨骨折について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	中手骨骨折について学ぶ 小テスト		
第25回	授業を通じての到達目標	上肢損傷について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	上肢損傷について学ぶ 小テスト		
第26回	授業を通じての到達目標	下肢損傷について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	下肢損傷について学ぶ 小テスト		
第27回	授業を通じての到達目標	小テスト	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	小テスト		
第28回	授業を通じての到達目標	総まとめ	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	苦手なポイント理解する		
第29回	授業を通じての到達目標	総まとめ	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	復習		
第30回	授業を通じての到達目標	総まとめ	柔道整復学・理論編改訂第6版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
	各コマにおける授業予定	小テスト		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	総合柔道整復演習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時限	後期	教室名	303
担 当 教 員	平林 大輔	実務経験と その関連資格	柔道整復師施術管理者 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師として骨学の復習と柔道整復理論の復習を行う。今までの学年でやってきた事のまとめとして授業を展開していく。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験で成績の全てを判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会 解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会						
《授業外における学習方法》						
各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》						
復習をしっかりとしておく。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	頭部・体幹の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	頭部・体幹の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	頭部・体幹の骨折・脱臼と軟部組織損傷		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	アスレチックリハビリテーション		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時間	前期 火・3,4限	教室名	
担 当 教 員	日高 彰人	実務経験と その関連資格	シオノギ製薬女子ソフトボール部トレーナー(H23年～H25年) ヴィッセル神戸スクールコーチ兼トレーナー(R2年～現在に至る) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー			
《授業科目における学習内容》						
トレーナーの大きな役割の1つである「アスレチックリハビリテーション」について、スポーツ選手の傷病の受傷後から復帰までの要素とアプローチ方法を理解し、実践できるようになる為の講義・実技を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
期末テスト・出席・平常点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー教本7「アスレチックリハビリテーション」						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	アイスブレイクと行う授業の概要の説明 「アスレチックリハビリテーション」に対して現時点でのイメージを 共有		AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	イントロダクション				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーションの概念・定義と我が国の歩みと現状を理解す る		AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	アスレチックリハビリテーションの定義				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	アスリハの目標・流れ・段階を理解する		AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	アスレチックリハビリテーションの概要				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	情報収集・測定検査テスト法について、リスク管理について理解 する		AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	機能評価・リスク管理の基礎知識				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	筋力エクササイズの目的・基礎知識を理解する		AT教本7 「アスレティックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	運動療法の基礎知識(エクササイズの目的・運動療法について)				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	筋力エクササイズのパログラミング・評価、患部外トレーニングについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	運動療法の基礎知識(筋力)		
第7回	授業を通じての到達目標	患部エクササイズ、MMTについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	運動療法の基礎知識(筋力)		
第8回	授業を通じての到達目標	OKC・CKC・SCKC、チューブ負荷・マシン・フリーウエイトについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	運動療法の基礎知識(筋力)		
第9回	授業を通じての到達目標	関節可動域拡大エクササイズの基礎知識、適応・導入について	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	運動療法の基礎知識(関節可動域)		
第10回	授業を通じての到達目標	関節可動域エクササイズのパログラミングについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	運動療法の基礎知識(関節可動域)		
第11回	授業を通じての到達目標	神経筋協調性エクササイズの基礎知識、適応・導入について	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	運動療法の基礎知識(神経筋協調性)		
第12回	授業を通じての到達目標	神経筋協調性エクササイズのパログラミングについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	運動療法の基礎知識(神経筋協調性)		
第13回	授業を通じての到達目標	全身持久力エクササイズの基礎知識、適応・導入について	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	運動療法の基礎知識(全身持久力)		
第14回	授業を通じての到達目標	全身持久力エクササイズのパログラミングについて理解する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	運動療法の基礎知識(全身持久力)		
第15回	授業を通じての到達目標	身体組成管理エクササイズの基礎知識、適応・導入について	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	運動療法の基礎知識(身体組成)		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	アスレチックリハビリテーション		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時限	前期 火・3,4限	教室名	
担 当 教 員	日高 彰人	実務経験と その関連資格	シオノギ製薬女子ソフトボール部トレーナー(H23年～H25年) ヴィッセル神戸スクールコーチ兼トレーナー(R2年～現在に至る) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー			
《授業科目における学習内容》						
トレーナーの大きな役割の1つである「アスレチックリハビリテーション」について、スポーツ選手の傷病の受傷後から復帰までの要素とアプローチ方法を理解し、実践できるようになる為の講義・実技を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
期末テスト・出席・平常点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー教本7「アスレチックリハビリテーション」						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	授業を 通じての 到達目標	身体組成管理エクササイズのパログラミングについて理解する		AT教本7 「アスレチックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	運動療法の基礎知識(身体組成)				
第 17 回	授業を 通じての 到達目標	再発予防エクササイズの基礎知識、適応・導入について		AT教本7 「アスレチックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	運動療法の基礎知識(再発予防・外傷予防)				
第 18 回	授業を 通じての 到達目標	再発予防エクササイズのパログラミングについて理解する		AT教本7 「アスレチックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	運動療法の基礎知識(再発予防・外傷予防)				
第 19 回	授業を 通じての 到達目標	物理療法の基礎知識、適応・導入について		AT教本7 「アスレチックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	物理療法(概論)				
第 20 回	授業を 通じての 到達目標	物理療法の基礎知識、適応・導入について		AT教本7 「アスレチックリ ハビリテーション」		
	各コマに おける 授業予定	物理療法(概論)				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	授業を通じての到達目標	温熱療法の分類・効果・目的・適応・留意点について	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	物理療法(温熱・寒冷)		
第22回	授業を通じての到達目標	電気・超音波療法の分類・効果・目的・適応・留意点について	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	物理療法(電気・超音波)		
第23回	授業を通じての到達目標	装具の分類・効果・目的・適応・留意点について、実際にテーピングを用い効果を実感する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	物理療法(装具・テーピング上肢)		
第24回	授業を通じての到達目標	装具の分類・効果・目的・適応・留意点について、実際にテーピングを用い効果を実感する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	物理療法(装具・テーピング体幹)		
第25回	授業を通じての到達目標	装具の分類・効果・目的・適応・留意点について、実際にテーピングを用い効果を実感する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	物理療法(装具・テーピング下肢)		
第26回	授業を通じての到達目標	装具の分類・効果・目的・適応・留意点について、実際にテーピングを用い効果を実感する	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	物理療法(装具・テーピング下肢)		
第27回	授業を通じての到達目標	前期範囲の全体の復習	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	まとめ		
第28回	授業を通じての到達目標	前期範囲の全体の復習	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	まとめ		
第29回	授業を通じての到達目標	前期範囲の全体の復習	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	まとめ		
第30回	授業を通じての到達目標	前期範囲の全体の復習	AT教本7 「アスレティックリハビリテーション」	
	各コマにおける授業予定	まとめ		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	コンディショニングⅡ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	4年生		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	日高 彰人	実務経験と その関連資格	シオノギ製薬女子ソフトボール部トレーナー(H23年～H25年) ヴィッセル神戸スクールコーチ兼トレーナー(R2年～現在に至る) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー			
《授業科目における学習内容》						
トレーナーの大きな役割の1つである「コンディショニング」について、スポーツ選手のピークパフォーマンスを発揮する為の要素とそのアプローチ方法を理解し、実践できるようになる為の講義・実技を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
期末テスト・出席・平常点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー教本8「予防とコンディショニング」						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	アイスブレイクと行う授業の概要の説明 「コンディショニング」に対して現時点でのイメージを共有		AT教本6 「予防とコンディ ショニング」		
	各コマに おける 授業予定	イントロダクション				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	コンディショニングの定義・要素・流れの復習する		AT教本6 「予防とコンディ ショニング」		
	各コマに おける 授業予定	コンディショニングとは コンディショニングの要素(身体的・環境的・心因的) コンディショニングの流れ(測定評価・計画・実施・再評価)				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	競技特性の理解する		AT教本6 「予防とコンディ ショニング」		
	各コマに おける 授業予定	競技特性とコンディショニング 冬季競技・記録系・球技系・採点系・格技系				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	コンディショニングを実践する		AT教本6 「予防とコンディ ショニング」		
	各コマに おける 授業予定	記録系競技のコンディショニングの実践				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	コンディショニングを実践する		AT教本6 「予防とコンディ ショニング」		
	各コマに おける 授業予定	球技系競技(サッカー)のコンディショニングの実践				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	コンディショニングを実践する	AT教本6 「予防とコンディショニング」	
	各コマにおける授業予定	球技系競技(野球)のコンディショニングの実践		
第7回	授業を通じての到達目標	コンディショニングを実践する	AT教本6 「予防とコンディショニング」	
	各コマにおける授業予定	球技系競技(バスケットボール)のコンディショニングの実践		
第8回	授業を通じての到達目標	コンディショニングを実践する	AT教本6 「予防とコンディショニング」	
	各コマにおける授業予定	球技系競技(バレーボール)のコンディショニングの実践		
第9回	授業を通じての到達目標	コンディショニングを実践する	AT教本6 「予防とコンディショニング」	
	各コマにおける授業予定	球技系競技(格技系)のコンディショニングの実践		
第10回	授業を通じての到達目標	コンディショニングを実践する	AT教本6 「予防とコンディショニング」	
	各コマにおける授業予定	一般人(ボディメイク)のコンディショニングの実践		
第11回	授業を通じての到達目標	コンディショニングを実践する	AT教本6 「予防とコンディショニング」	
	各コマにおける授業予定	一般人(減量)のコンディショニングの実践		
第12回	授業を通じての到達目標	総復習とテストに向けてのポイントの整理	AT教本6 「予防とコンディショニング」	
	各コマにおける授業予定	まとめ		
第13回	授業を通じての到達目標	総復習とテストに向けてのポイントの整理	AT教本6 「予防とコンディショニング」	
	各コマにおける授業予定	まとめ		
第14回	授業を通じての到達目標	総復習とテストに向けてのポイントの整理	AT教本6 「予防とコンディショニング」	
	各コマにおける授業予定	まとめ		
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定	テスト		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	コンディショニングⅢ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時限	前期 金・3限	教室名	303教室
担 当 教 員	木下 和樹	実務経験と その関連資格	医療法人 豊医会 原医院(H22年4月～現在に至る) 柔道整復師免許 理学療法士免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の業務は、接骨院・病院・介護施設・スポーツ現場と多岐にわたります。競技者の外傷予防や再発防止トレーニング、競技者を正しい情報、知識でサポートできるように考える						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
競技者の外傷予防						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み、実技練習						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験においても出題されており、臨床現場においても必ず必要となる重要科目である						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動生理学を理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	運動とエネルギー代謝・骨と筋			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動生理学を理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	呼吸・酸素摂取量・循環			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	外傷予防の概論			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	外傷の発生要因			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	評価と測定について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	関節弛緩性テスト・筋タイトネステスト			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	コンディショニングの方法について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	ストレッチングの方法と実際		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	コンディショニングの方法について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	スポーツマッサージの方法と実際		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	コンディショニングの方法について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	スポーツテーピングの方法と実際		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	コンディショニングの方法について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	柔道における外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩関節の受傷・トレーニングの立案と実際		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	水泳・バスケットにおける外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	体幹の受傷・ACL損傷		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	サッカーにおける外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	足関節の受傷・トレーニングの立案と実際		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	成長期の外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	オスグットシュラッター病		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	高齢者の受傷メカニズム		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	再復習をおこない疑問点などを解消する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	授業総復習		

令和 4 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	医療関係法規		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	4年生		学期及び曜時限	前期 金 2	教室名	304
担当教員	平林 大輔	実務経験と その関連資格	柔道整復師 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師法を中心に医療関係法規を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書(関係法規)						
《授業外における学習方法》						
国家試験に対して必修問題で出題される重要科目で、免許取得時から臨床現場にてにおいて必要な法規を学ぶ。						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復師として患者さんのためにも自分のためにも必要不可欠な法規を学ぶ。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	法の体系を理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読	
		各コマにおける授業予定	法の体系			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療人全般の法規に関して理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師に関する法規			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	インフォームドコンセントとインフォームドアセントの違いを理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と患者の権利			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療事故と医療過誤の違いを理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読	
		各コマにおける授業予定	医療過誤とリスクマネジメント			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	免許制度を設ける理由を理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法の目的			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験と業務範囲について理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験と柔道整復師の業務範囲(守秘義務)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	施術所について理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読
		各コマにおける授業予定	施術所		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	広告の制限を理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読
		各コマにおける授業予定	広告		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	罰則について理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読
		各コマにおける授業予定	罪刑法定主義、両罰規定		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	指定登録機関、特例について理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読
		各コマにおける授業予定	指定登録機関、免許・受験資格の特例		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	各医療従事者の資格法を理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読
		各コマにおける授業予定	医療従事者の資格法		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	各医療従事者の資格法を理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読
		各コマにおける授業予定	医療従事者の資格法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療法を理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読
		各コマにおける授業予定	医療法		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉法を理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読
		各コマにおける授業予定	社会福祉関係法規		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師法について理解する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会関係法規 医歯薬出版	関係法規のテキストを項目ごとに熟読
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	画像診断学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時間	前期 木2限	教室名	304教室
担 当 教 員	井上晃一	実務経験とその関連資格	白馬堂整骨院(H27年・4月～H28年5月)、ひろまる整骨院(H28年5月～H30年11月) 接骨院開業(H30年12月～現在に至る) 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
超音波画像装置の取り扱いや、医用画像の抽出、読影の基本を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
施術の適応と医用画像の理解,触診機能解剖アトラス上・下						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み・医療用語学習・骨・筋の解剖の理解						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復師が業務で取り扱うことのできる画像検査装置であり、国家試験問題にもエコー検査画像が出題されている。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	超音波装置について理解することができるようになる。	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料	
		各コマにおける授業予定	医用画像の分類と使用上の注意点			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	超音波装置について理解することができるようになる。	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料	
		各コマにおける授業予定	超音波検査装置について			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	超音波装置について理解することができるようになる。	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料	
		各コマにおける授業予定	超音波検査装置プローブの操作方法			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	超音波装置について理解することができるようになる。	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料	
		各コマにおける授業予定	超音波検査装置プローブの基礎操作実技			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	超音波装置について理解することができるようになる。	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習資料	
		各コマにおける授業予定	超音波装置の画像表示について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	医用画像の読影と理解をすることができるようになる。	施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習 資料
		各コマに おける 授業予定	医用画像と症例		
第7回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	医用画像の読影と理解をすることができるようになる。	施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習 資料
		各コマに おける 授業予定	医用画像と症例		
第8回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	触診と検査法について理解することができる。	施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習 資料
		各コマに おける 授業予定	上肢の触診と検査法		
第9回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	触診と検査法について理解することができる。	施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習 資料
		各コマに おける 授業予定	上肢の触診と検査法		
第10回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	触診と検査法について理解することができる。	施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習 資料
		各コマに おける 授業予定	上肢の触診と検査法		
第11回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	触診と検査法について理解することができる。	施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習 資料
		各コマに おける 授業予定	下肢の触診と検査法		
第12回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	触診と検査法について理解することができる。	施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習 資料
		各コマに おける 授業予定	下肢の触診と検査法		
第13回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	触診と検査法について理解することができる。	施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習 資料
		各コマに おける 授業予定	下肢の触診と検査法		
第14回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	触診と検査法について理解することができる。	施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習 資料
		各コマに おける 授業予定	下肢の触診と検査法		
第15回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	前期講義内容を理解することができる。	施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習 資料
		各コマに おける 授業予定	復習とまとめ		